

東北支援活動に奮闘 3年

神戸市シルバーカレッジとNPO法人グループ〈わ〉・こうべ市民福祉振興協会は、連携して平成23年3月から東日本大震災の支援活動に取り組んできた。グループ〈わ〉は23年7月から4次にわたって被災地へ在學生と合同の支援チームを派遣。田んぼの瓦礫運びや昔遊び、民謡などの公演を通して被災者や子供たちと交流を重ねてきた。カレッジでも募金や救援物資集め、体験報告会を実施。23年12月には女川の子供たちを神戸に招待した。振興協会も毎年、音楽チームを派遣してKSCチームと共演。〈オールしあわせの村〉として被災地の皆さんと固い絆を結ぶことができた。(グループわ広報・南形徹)



第1次隊 23年7月 南三陸の田んぼへ

第1次隊(17人)は7月18日～22日に宮城県南三陸町・大崎市・登米市へ。大型ライトバン4台に農機具と段ボール65箱分の衣類・雑貨・日用品など支援物資を満載。1200kmを走破し登米の避難所に届けた。

南三陸町では炎天下、9人が田んぼの瓦礫運びを手伝った。海岸から5km、山間の棚田なのに多くの住宅が全壊し、田んぼは瓦礫の山。柱、家具、丸太、台所用品、学用品、ボートまであり、手をつけられないほどの惨状に暫し立ち尽くした。3日間で3反ほどを片付けた。

残る8人は、大崎市などの幼稚園・小学校・児童館を回り、子供たちと昔遊び・紙芝居・マジック・歌を楽しんだ。2か所で振興協会チームと共演した。どこでも大歓迎され「こんな笑顔の子供たちを初めてみました」と保母さんたちにも感謝された。

最終日には地元の大学教授の案内で、南三陸と石巻、の被災地を見学した。鉄骨だけのビルが無残な姿を晒し、見渡す限り瓦礫の山が広がる。子供たち70数人が大津波にのまれた石巻の大川小学校。泥まみれの机がわずかに残り、祭壇には花やおもちゃ・漫画、学用品・

飲み物が供えられ、多くの人が涙ながらに手を合わせる姿が見られた。私たちも涙がとまらなかった。

●訪問先 大崎市のNPO田んぼ。南三陸町入谷の棚田。登米市米山児童館、中田児童館。大崎市大貫小学校、登米市迫児童館。登米児童館。大川小学校跡。

●1次隊メンバー ▽わ本部＝道満俊徳(生13・団長) 芦田義和(生15) 渡邊佳規(生12) 南形徹(生14・広報) ▽内村ナナ子(国18) 平林啓子(音18) 水島和信(生12) 清野明(生13) 小澤輝彦(生13) 片岡隆夫(国17) 海野龍英(食16) 内田たみ子(福10) 増金スミ子(福11) 古後健一(福18) 飯川泰郎(国12) 大澤貞男(生13) 黒本茂弘(食13) ▽振興協会同行＝入江敏行(福8) 新小田収(福8) 田邊瑩子(福12) 【写真 南三陸での田んぼ作業】

第2次隊 10月 仮設住宅も訪問

第2次隊(15人)は23年10月15日～19日に女川町・石巻市・東松島市・名取市を訪れ、仮設住宅・小学校・幼稚園・児童館で計11回の慰問活動をした。現地から「心のケアをしてほしい」との要望があり、昔遊び・紙芝居・マジック・大道芸・民謡・童謡を中心としたプログラムにした。

仮設住宅での公演は初めてだったので戸惑うことばかり。事前にポスターやチラシを配布していたのに集



まりが悪く、三味線をかき鳴らして住宅内を回り、マイクで呼び込みをした。でも、始まってみると皆さんノリノリ。「初めて近所の人と話をした。半年ぶりで民謡を歌った」というお年寄りも多く、メンバーも感激の面持ち。150人の子供たちが迎えてくれた幼稚園もあり、メンバーは連日てんでこ舞いの大忙しだった。

牡鹿半島にある女川町は、道路事情が悪く陸の孤島状態。満潮になると道路が冠水するため、宿舎との往復は潮時表を見ながら、といった有様だった。名取市閑上地区は平地のため、家も学校もすべてが津波にさらわれて見渡す限り何もない荒野。見学した私たちは暫し言葉もなかった。【写真=23年10月、名取市増田保育所で】

●訪問先 女川町復興センター。石巻バイパス東・西仮設住宅。女川町清水・新田仮設住宅。東松島市花房幼稚園。石巻市東浜小学校・萩の浜保育所。名取市増田保育所。名取が丘児童センター。名取が丘保育所。ゆりが丘児童センター。

●2次隊メンバー ▽わ本部=西田圭一(生9・団長) 道満俊徳(生13) ▽大澤貞男(生13) 内田たみ子(福10) 増金スミ子(福11) 飯川泰郎(国12) 古後健一(福18) 中村宏栄(福9) 高木良治(福10) 田邊瑩子(福12) 波多野武郎(食16) 黒本茂弘(食13) 南形公子(福13) 海野龍英(食16) 内村ナナ子(国18)

第3次隊 24年7月 銭太鼓も加わって

第3次隊(17人)は24年7月7日~13日の日程(6泊7日)で、女川町・石巻市・名取市・仙台市若林区を訪問。仮設住宅・小学校・保育所・児童館など15か所を回り、昔遊び・紙芝居・マジック・大道芸・銭太鼓・民謡を中心としたプログラムで、一緒に遊んだり体験してもらったりした。銭太鼓メンバーが初めて参加、子供たちに大もてだった。西区竹の台小の女性教諭が

◆メッセージ交流 支援チームが訪問する小学校や児童館・仮設住宅には、神戸の子供たちが書いた激励メッセージを届けている。第1次~3次を通じて、44校園から寄せられた約200枚のメッセージを女川、石巻などの24校園に贈った。今では神戸と被災地の小学校や児童館同士の交流も始まっている。

同行した。仮設のお年寄りとは顔なじみになり、話が弾んだ。福祉振興協会もプロの歌手・花城アリアや女性パフォーマー、体操のインストラクター、職員ら6人のチームを派遣。3か所で共演した。

最終日には、石巻市の亀山市長と仙台市にある生涯学習施設「豊齢学園」を表敬訪問した。豊齢学園とは「今後、いっしょに活動しよう」との約束ができた。

【写真=24年7月、女川町で仮設の皆さんと銭太鼓の演奏】

●訪問先 女川町復興センター。女川町清水・新田仮設住宅。石巻バイパス東・西仮設住宅。女川第二小。石巻市東浜小学校・萩の浜保育所。名取が丘保育所。名取が丘児童センター。名取市増田保育所。名取市ゆりが丘児童センター(振興協会チームと共演)。仙台市若林区東六郷小(共演)。六郷児童館(共演)。石巻市役所。仙台の豊齢学園。

●3次隊メンバー ▽わ本部=西田圭一(団長・生9) 芦田義和(生15) 海野龍英(食16) ▽内田たみ子(福10) 増金スミ子(福11) 飯川泰郎(福12) 水嶋和信(生12) 波多野武郎(食16) 古後健一(健18) 三浦捷治(国10) 三浦良子(国9) 阿部和子(福11) 林弥生(国13) 山田保子(音13) 筒井ちなみ(音17) 安田夫市(健17) 大和川明美(音18) 【振興協会チーム】 佃孝司(団長) 花城アリア、ドレミちゃん、体操インストラクターら6人

第4次隊 25年7月 七夕飾りを作ろう

第4次隊(8人)は25年7月2日~6日に女川町・名取市・仙台市若林区を訪問。体育館や仮設住宅・小学校・保育所でスポーツ大会・料理交歓会・七夕飾り制作などを楽しんだ。今回は仙台の生涯学習施設・豊齢学園との連携プレーが実現。福祉振興協会・18期G学習チームも加わり4者協働の賑やかな慰問活動となった。

女川町体育館でのディスコン大会(ディスクを転がす軽スポーツ)には、お年寄りや障害者ら50人もの参

◆記録ビデオ作成 東北支援チームの活動ぶりを記録、保存するため『震災ボランティア奮闘』のタイトルでDVDを作成、体験報告会で上映したほか友好団体に配布した。第1部~第3部まであり各17分。映像撮影は水嶋和信、古後健一、黒本茂弘らが分担。ナレーションは内村ナナ子、筒井ちえみ。編集は南形徹が担当した。



加があり、豊麗側も私たちがスタッフは汗だくだった。3日目は仮設住宅と女川小で仙台の伝承七夕飾り制作。豊麗スタッフの指導で、華やかなミニ飾りが次々とできあがり「わあ、きれい」。大人も子供も大喜びだった。＝写真は出来上がった七夕飾りに大喜び。4日、清水仮設で4日目は2班に分かれ、A班は女川町の仮設で仙台男の台所チーム、地元の30人と一緒に料理交歓会。神戸は水餃子とおにぎり。仙台は手打ちそばと卵焼きのメニューで、ワイワイがやがやと食べ比べを楽しんだ。B班は名取市閑上小へ。津波で流され間借り校舎だ。豊麗のお手玉チームと組んで一緒に昔遊び。仙台の六郷児童館と名取市の増田保育所でも子供たちと踊ったり風車を作ったり楽しい時間を過ごした。

【訪問先】 仙台豊麗学園、女川町体育館、清水仮設住宅、浦宿仮設住宅、女川小学校、名取市閑上小学校、増田保育所、

田んぼ作業の朝

内村ナナ子（国18・1次2次隊に参加）

初めて田んぼ作業へ行く朝でした。ホテルのロビーで長靴に鉄板入りの中敷を入れていると、ソファーにいた老婦人2人が不思議そうに見ていました。私はてっきり旅行客かと思い、「どちらから、いらしたのですか？」と声をかけると、「私たち南三陸から来た避難者なんですよ」と思わぬ返事が返ってきました。お二人は75歳と73歳の友人同士。家も、田んぼも、家財も流され、隣人たちの目の前で次々と津波にのまれていったそうです。

「今まで一生懸命生きてきたのにねえ…。でも、命だけでも助かって…ありがたいと思わなくてはいけません。私は、こみあげる涙をこらえながら、話を聞きました。ここで、もう2か月も仮設住宅へ入居できる日を待っているそうです。「あなたたちも、遠い神戸から来ていただいてありがとうございます」と、やさしい声をかけてくださいました。[こんな方たちが何万人といるんだ。私も力いっぱい何かをしなくちゃ]。お二人と手を取り合って別れを惜しみながら、重い長靴に足をとおして、元気よく作業に出かけました。

仙台市六郷児童館（振興協会とG学習チームは一部別行動）

【第4次メンバー】南形徹（団長・生14）海野龍英（リーダー・食16）片岡隆夫（国17）増金すみ子（福11）大澤貞男（生13）内村ナナ子（国18）板谷純子（生18）▽留守部隊＝芦田（生15）波多野武郎（食16）田路義弘（生17）

▽カレッジ事務局＝糸原純▽振興協会＝吾郷信幸、佃孝司、駿河明子、エスケール音楽チーム5人、ドレミちゃん、体操2人▽健福18期G学チーム5人。

●第4次チームは、仙台豊麗学園（豊麗ネット）と協同しておこなった初めての活動でした。スポーツ大会、手料理交歓会、仙台七夕飾り制作をメインに3月から準備を進め、なんとか実現にこぎつけました。「やってよかったね。まずまず成功だね」。課題は残るものの、私たちが豊麗側も協同で活動する第一歩が踏み出せたとの思いを深くしました。カレッジ事務局の糸原マネージャーが同行、豊麗側と懇談されたことで、KSCと豊麗が連携する機運も生まれたのではないのでしょうか。（南形）

募金や女川の児童ら招待

現地へ支援隊を派遣する活動と並行してカレッジでは募金活動などの〔後方支援〕にも意欲的に取り組んだ。23年3月の大震災発生直後から救援募金を始め、約50万円を振興協会に寄託（振興協会は約3400万円分の救援物資を被災地に届けた）。6月には35万円分の農機具・雑貨・野菜の種子などを大崎市NP0田んぼに贈った。衣料・日用雑貨など物資の提供も会員・在学生に呼びかけ、7月には段ボール65箱分を第1次隊に託して登米市の避難所に届けた。

24年10月からは支援チームの活動資金に充当する「サポート募金」を実施。約90万円が寄せられた（25年度も継続）。卒業式・入学式などでも募金を呼びかけ、あしなが育英会などに寄託した。

23年12月10～12日には石巻市東浜小と女川第四小の児童ら25人を神戸に招待した。ルミナリエや須磨水族園、明石大橋、王子動物園を見学して、しあわせの村に2泊。西区竹の台小では、地元の藍那小の児童も交えてミニ運動会をして交流した。毎年、クリスマスにはこれまでに訪問した児童館・保育所など十数か所へ学用品・日用品などをプレゼントして喜ばれている。

支援の輪を広げようと、派遣チームによる「体験報告会」も23年11月と24年11月にカレッジで開催した。メンバー7～8人の体験発表、女川・石巻からゲストを招いての講演、記録ビデオ上映などの内容で、毎回300～400人もの参加者があった。東北物産販売も大好評だった。（25年10月には震災シンポジウムを開催予定）

◆ボランティア奮闘記 第1次～3次の支援チーム43人の感想文集。壊滅した被災地を訪問して何を感じたのか。被災者や子供たちとどんな話をしたのか。約50枚の写真と共に、広報誌などに公表されていない個人的な思いが綴られている。第3集まで発行。